

0311tex について

毎月 11 日の出来事を観察日記のように書く試みです。
2011 年 3 月 11 日をスタートとして 1 年間続けていきます。
プロジェクト概要を米光一成が skype と facebook で発表し、賛同者がメールで送ってくれたテキストをまとめたものです。

【フォーマット】

- 1行目 日付:名前:場所:性別年齢
- 本文 その日のことを観察的に記す。300 字。算用数字はすべて半角で。

0311text の複製、配布、引用は自由です。

記名テキストなので改変は不可とします。

出所として以下の URL を読者が参照できるように明示してください。

こどものもうそう blog:0311text

<http://blog.lv99.com/?eid=1081543>

2011年3月11日：米光一成：東京豊島区：男46歳 自宅。揺れが激しいのでドアを開けた。揺れがおさまらない。「外へ出よう」慌ててないつもりだったが、iPhoneを置いてきたし、上着も羽織ってなかった。寒い。揺れがおさまらず部屋にもどる。爪切りが落ちてPCの上に爪が散乱。本が崩れてた。目薬が見つからない。また揺れる。近所の避難場所に（行ってみるか）行ってみる。人がたくさんいる。運動場、300人以上はいた。2011年3月11日：小熊直人：東京文京区：男33歳 外苑の撮影スタジオ。料理写真を撮影中に大きな揺れ。小皿に入れていたゴマだれが勢いよく飛び散り、撮影用の皿・コップの割れる音がスタジオ内に響く。慌てて外に出たものの近くに広いスペースがなく、目の前で揺れる電信柱と電線の存在に恐怖を憶える。ワンセグとTwitterの情報で東北の被害が甚大と知り、実家が福島県（郡山市）のため心配になるが 当然のように電話は繋がらない。一方で妻からは「無事」とのメールが届き安堵。帰宅難民と一向に進まない渋滞を横目に自転車で帰宅。それでも普段30分の距離に1時間かかる。結局、この日実家とは連絡が取れなかった。2011年3月11日：梅田 徹：横浜市：男41歳 雑居ビルの3階。耳鼻科の待合室。午後の診察開始（15時から）を待っていた。自分のほかに数名。揺れ始めからゆったりした大きな揺れ。しかも長い。そして停電。ブザー。診察室から悲鳴。全員慌てて階段を駆け下りる。ふと、911が頭をよぎる。出ると、見たことのない光景。通りにたくさんの人。信号も消えていた。携帯が繋がらず、自宅にいるはずの妻にツイート。とにかく家へ。返事を待たず、足取りを早める。2011年3月11日：深川岳志：東京杉並区：男50歳 自宅。パソコンの前にいたら激しい揺れ。ぐらぐら来たので、息子と妻に声をかけて、自宅の外に出た。散髪屋の主人が歩道から空を見上げていたので、「揺れますねえ。あ、今度は横ゆれだ」と雑談。だんだん人が増えてくる。揺れが一段落ついてから自宅に戻ると、息子の部屋で、デスクトップパソコンが、布団に横たわると頭がくる位置に転落していた。ニュースで生まれてはじめて大津波警報を見る。東北地方の太平洋側の海岸線が真っ赤だ。2011年3月11日：長崎友絵：東京新宿区：女31歳 会社にて。「ここはまずい」「阪神」経験者の社長の声で全員外へ。初めて会社の階段を駆け下りた。ビルの看板と窓が落ちてこないか、じっと見上げる。青空が広がる。同僚女性と互いの腕を握り合っていた。最初の揺れがおさまらず、荷物や上着をとりに戻る。落下物はほぼなし。ブレーカー一落としたり、食器片付いたり。同僚男性が、関係者向けに扉に

貼る「地震のため事務所閉めます」の紙を書いていた。その間も余震続く。再び外。橋の下の路上生活者の手元にラジオを発見。初対面だが情報を乞う。「7.5 だかなんだか。宮城だ。」ひとまず小学校に避難。狭い校庭で、親への引渡しと集団下校のようすを見ながら、ラジオを聞き続けた。2011年3月11日：高島知子：東京都渋谷区：女32歳 渋谷区の税務署7階で大きな揺れ。落ち着いてから階段で降りると、路上にたくさんの人。どこへも電話が繋がらない。仕方なく、徒歩で一駅分往復して用事を済ます。会社を早退する外国人が缶ビール片手に歩いている。バスの列が収まらないので松屋で遅すぎるごはん。しかしバスの列の混雑悪化。諦める。246沿いを1時間、夜のピクニックみたい（のんき）。テレビをつけて啞然。PCでツイッター一上に流れる情報を知りさらに啞然。これを機にツイッターを始めた。2011年3月11日：朝比奈綾：静岡県静岡市葵区：女38歳 自宅。マンションの地震予知警報機が直前に作動。家具の少ない寝室に移動してベッドにつかまる。横揺れが始まった。家の中で落ちたものや倒れたものは一つもなかった。揺れが止まってから外に出る。道では自転車のおじさんとおばさんが普通に立ち話している。他にひとはいない。近くの小学校から「現在揺れがおさまっています、校舎にいる児童は速やかに校庭へ集合してください」というアナウンスが聞こえる。家に戻る。電話は通じない。16時過ぎ、仕事のために車で出かける。道路はいつもどおり、夕方の軽い渋滞。2011年3月11日：佐藤忍：東京都目黒区：女59歳 区役所大ホールで50人位と田辺鶴瑛の講談を聞いていた。地震が揺れて「もしかして大地震だ」と誰かが言った。「あら地震？」と講談師が不思議そうにした。区役所のニシさんが「机の下に避難して下さい」と言った。皆がペナペナな折畳みの中に入った。オダさんはまだ立っていたので私は手招きした。「今頃うちのジイさん下敷きかも」と講談師が笑った。動画はずっと静止画像のままだった。息子の部屋のSD以外のガンプラが全て床に墜落していた。ガリレオ温度計が割れピアノが白く化学火傷していた。夕方の息子からの電話はオレオレ詐欺ような声だった。「犬もアンタも大丈夫なのね？ 夕食は外で食う」と言った。2011年3月11日：松永肇一：東京都世田谷区三軒茶屋：男51歳 会社にいた。揺れと音が一緒にきて、思わず机の下にもぐったら向かいの席のやつと目が合う。51年生きてきて初めて机の下に潜ったよ。最初の揺れが少し収まったので、机の下から這い出した。天井から塗料が落ちている。五階のオフィスから避難することになった。一週間前から原因不明の炎症を起こしていた

足をひきずって外に出ると、ビルの前は百人ぐらいの人がいた。ヘルメットかぶっている人、手回しラジオ持ってる人、ワンセグ見てる人。自宅に電話が通じないのでツイッターで情報収集していたら余震がキタ！二十階建のビルが見た目にはっきり分かるぐらい左右に揺れている。みんなビルから離れた。その日は帰れなかった。2011年3月11日：小嶋智：神奈川県横浜市：男40歳 19階にいた時、大きな横揺れがはじまった。近くの全面ガラスばりのビルの表面が波打ってみえる。揺れがおさまると、仕事にもどる人もいたが、私は集中できない。窓のそばまで行って東京湾にそそぐ河口をみると、水位が下がっている。そして水位があがる。川が逆流しているのが19階からでもはっきりと見える。水際ぎりぎりのパワーショベルが、少し水につかる。翌朝4時に会社を出た。いつもと違う経路でかえる。夜明けの渋谷駅で空の写真を撮ると、飛んできたカラスがうつりこんだ。2011年3月11日：仔芝健：東京都目黒区：男26歳 会社の屋上。誰もいない。快晴。林試の森公園の木々が遠くに見える。風は冷たいが、強くは無かった。煙草に火をつけた。最後の一本だった。隣に座った後輩が細かい貧乏ゆすりを始める。ベンチがカタカタと音をたてた。一瞬、後輩がムツとした顔で私を見た。直後 灰皿が地面に落ちて 背後にある室外機から 金属版をハンマーで叩きつけるような大きな音がした。反射的に 傍にある金網を握り締めた。2011年3月11日：海猫沢めろん：東京都文京区：男35歳 ゲラを直し終わってベッドでうとうとしていたら揺れた。けっこうでかくなってきたので物干しに出た。隣のおじいちゃんの家が壊れそうになっていたが、阪神淡路の震災のときもこのくらいだったような気がするので、まあ、イケるだろうと思った。部屋にもどると本棚が壊れていた（自作なので積み木のようになっている）なおすのが面倒なので寝た。夜、起きてオムライスを食べた。寝た。2011年3月11日：柿崎俊道：東京都新宿区：男35歳 靖国通り沿いの歌舞伎町ルノアールにて地震に遭遇。飲食店が多いところだけに従業員、客がザワザワと通りへと出てくる。走る人はほとんど見られず、おっかなびっくりで出てくる。通りの信号や街路樹がミシミシと揺れ、屋内外のどちらが安全か誰にもわからない。ビルの5階にいるチャライ兄ちゃんが不安そうに窓から顔をのぞかしている。どこからか悲鳴。雑居ビルの看板が落ちたらしい。警官が黄色いテープを貼っている。人々が靖国通りの中央帯に集まる。ピカデリーのガラス窓すら危険に思えてくる。電車は止まっているだろうから、バス停に向かって歩き出す。ただ長蛇の列を見て、渋谷まで歩くこと

にする。7時間後、世田谷区の家に着。2011年3月11日：中村隆之：東京都国立市：男43歳 会社スタジオ。コーヒーをマグカップ一杯注いで、Skypeでチャット中 地震の揺れは、最初はゆっくり、徐々に激しく。会社のガラス扉が大きな音を立てたので、隣の部屋のスタッフに「外に出た方がいい」と声かけて、会社前の道路に出る。すでに外には沢山の人。揺れが収まって、コーヒーは溢れて、デスクはびっしょり。しばらく（小一時間）して自宅に電話。電話が繋がらないので、自転車で帰ってみる。妻は友人宅へ車で外出中。小学生の子供二人が留守番してた。次女は半べそ、長男は他の子供と遊んでた。しばらくして、妻帰宅。通学中の長女が西荻窪から帰れなくなっている。電車は動かないようなので、車で長女を迎えに行くことに。国立から、西荻窪まで片道2時間かかる 7時に家を出て、11時に帰宅。会社に戻り、今度は中野が自宅のスタッフを送る。茅ヶ崎が自宅のスタッフは、あきらめてもらって会社に宿泊。中野から自宅に戻ったのは、朝の4時。途中、帰宅困難者が徒歩で帰る姿を沢山見ました。2011年3月11日：朝倉かすみ：東京都豊島区：50歳 飲み会に参加し、朝6時ころ帰宅。正午すぎに起床し、仕事するも眠気におそわれ、午後3時まえに昼寝をはじめ、揺れで起こされる。コーヒーをのんだあとTwitterをみて、大地震だったと知る。テレビをつけ、「大地震」を確認し、親、友人に電話やメールで無事を告げる。夜中までテレビをみながらTwitterのTLを追い（ツイート、リプライ数件）、サンシャイン牧場をやってからベッドに入ったが、すぐに起きだし、ごはんを炊き、お風呂に水をため、踏み台をブレーカー（高所にある）の近くに持っていった。2011年3月11日：小長谷久子：東京都世田谷区：女23歳 会社で、先輩にできあがったレイアウトを見せていた。誰かが「あれ、揺れてる？」と言った。またか…と思うも、揺れは一向に収まらない。誰かが机の下に入ると、他の人もそれに続いた。先輩の机の下に入る。妙に冷静だった。ようやく揺れが収まり、自分の机に戻ると iPhone を手にし、まず twitter をチェックしてみた。ものすごい勢いでTLが流れる。再び大きな余震。その少し後、テレビで生き物のような津波を見ると ただ事ではないことがわかった。2011年3月11日：安田理央：高田馬場：男43歳 用事で中野に行った帰り、仕事場のあるマンションに入ろうとした瞬間、ぐにやりと揺れた。地震というよりも、悪酔いした時のような不快感。少しして、これは大地震だと気づき、慌てて前の道に出る。あちこちの建物から、人が出てきて道に溜まる。みんな不安というよりも、二

ヤニヤと笑っていた。学校に行っている子供の事が気になったので歩いて帰宅。途中でバスに乗れたので助かった。バスも空いていたし道も混んでいなかった。中学生の娘が小学校に息子を迎えにいつてくれたらしく、二人とも帰宅していた。妻も新宿の勤務先から自転車を借りて帰ってきた。お風呂は止めて、久々に家族全員で布団を並べて寝た。2011年3月11日：小川未来：東京板橋区：男19歳 自室で珍しくテレビを見ていた。パパイヤ鈴木が、野々村真と釣りにいくところだった。揺れだして、条件反射でツイッターを開く。グワーッと大きいのがきた。TL加速。パパイヤが砂嵐に。部活中の彼女に「大丈夫!？」とすぐにメールを送った。そうしながらも色々な物が崩れて行く。怖々と立って、棚の上のPCを押さえることに決めた。押さえていると母親が声をかけてきて、安心する。ゆれが収まってきて廊下に出た。『美味しんぼ』が、全巻投げ出されている。テレビのコードをつけ直すと、パパイヤはニュースになっていた。まさかテレ東が。釣りの結果が気になって自分の冷静(血)さに驚いた。2011年3月11日：岸田浩和：東京都中央区：男35歳。ビックサイトのシャッターが、吹き流される旗のように大きくたわみはじめる。グシャガガーッ、グワッシャ、「あっ、風とちゃう、揺れてるっ」外に飛び出す。トラックに立て掛けられた巻絨毯が倒れ、悲鳴が聞こえた。津波警報が鳴り「すぐ二階へ」の放送。横にいたOLがヒールを脱ぎ、止ったエスカレーターを裸足で駆け上がる。交通が死んだお台場は孤島と化した。日が暮れると冷たい風が吹き、自販機もコンビニも空になった。ノースリーブに超ミニだったコンパニオン達は、大きなプチプチシートを体に巻きつけ、繭のように寄り添う。ポットのお湯を飲み、千人の展示会難民と夜を越す。2011年3月11日：下司智津恵：神奈川県川崎市：女43歳 自宅で工作中、息子が帰宅した直後に大きな揺れ。習慣ですぐにテレビでNHKをつける。「2時46分に宮城県沖で地震」の速報を見たが、数秒も経たないうちに、いきなり停電。地震での停電は初めてなので、身の危険を感じて、携帯だけ掴んでマンションの廊下に出た。廊下に出ている人がたくさんいる。揺れが納まってから、下校中のはずの娘を迎えに行く。家の外に出ている人をたくさん見た。学童で娘をピックアップ後、セブンイレブンで30分並んで、夕飯用のお茶とパンを買った。ラジオ、懐中電灯など必要なものを集め、ラジオでNHKの1chをつけっぱなしにして、寝室で家族で過ごした。2011年3月11日：星野和一：東京都千代田区：男31歳 職場である神保町の漫画雑誌編集部。揺れ始めてすぐ震度を知ろうとテレビをつけに行

った。たどり着いてスイッチを入れてもまだ揺れていた。揺れ始めて10秒くらいで編集長が机に潜った。テレビが台をスライドし始め、目の前にいた自分は倒れないように両手で支えた。それから数分、何度かの余震のあいだ、何をしていたか分からず、ただテレビを押さえていた。机の周りに積まれた雑誌や漫画が雪崩を起こしていた。編集部には数名が各々の雪崩を片付け始める。テレビもまだ東北の津波を報道しておらず、「日本沈没しちゃうんじゃないの?」と誰かが笑った。2011年3月11日：藤山京子：都営浅草線車内(東京田町地下)地下鉄の揺れがやけに激しいと思ったら、急停車した。暗い。漫画「ドラゴンヘッド」を思い出す。富士山噴火?まさかね。でも生き埋めかもなあ。私、知らない人のなかでたった一人か。死ぬかな。死ぬんだろうな。つらいな。「乗客の皆、東京で震度5強の地震がありました」関東大震災?地上はどうなってるのか。周りの乗客がみんなスマートフォンを取り出した。私もついさっきAndroidにしたばかり。マジか。操作分からない。本当、運悪いな。お母さん、無事かな。それだけが、心配。2011年3月11日：渡邊宏美：東京都港区：女性33歳 港区のオフィスビル8階、窓際の席。めまいではなくて地震だった。机の下にもぐった人はおらず、立ち上がっていた 平たい花瓶の水がこぼれて振動がみえた 窓のあたりからギシギシと音を立ててビルはいつまでも揺れる 西側の窓から見たのは停車中の山手線と京浜東北線 南側の窓からはお台場方面に立ちのぼる黒煙がみえた 普段話さない人と目があって、会話をした 歩いて帰る人、会社に居残る人にわかれる 買出しに出た。8階からB1まで階段をつかった 行きも帰りも4階で途中休憩を挟んだ 2011年3月11日：浦高晃：千葉県船橋市：男34歳 ウォシュレット使用中に地震。ツイッターに「船橋震度3」とつぶやくも、揺れはさらに大きくなり「こんなのけいけんのい」とつぶやく。おしりを拭いてリビングへ、冷蔵庫がガタガタ、金魚の水槽からバシャバシャ水が溢れていた。本棚被害なし。ツッパリ棒エライ!片付け後、車でバイト先のジムに行く、道中異常なし。ジムは営業中止。停電の中皆で、事務所まで溢れたプールの水をバスタオルを雑巾にして排水。2時間ほど作業。帰ってからはテレビとネット漬け。夜中、徒歩で都内から家の近くまで来た友人の旦那さんを車で三駅先まで送る。道路は大渋滞で往復に四時間。2011年3月11日：田中モトヒロ：東京都港区芝公園：27歳 14:44「もうすぐデータを送ります」と客先からメールが来る。その日もうメールは来なかった。大きな振動が2度来た。6階オフィスの全員が机の下に隠れた。壁の塗装に

ヒビが入って、天井から粉が降ってきた。机の下でネットを見る。震源は宮城県沖。両親が「12日までちょっと仙台に帰る」と言っていた。同僚のワンセグから、地元の地名と津波の音声が聞こえる。「お前の実家あたりは阪神大震災クラスでも停電だけで済むだろう」10年前の地学教師の言葉を何回も思い返す。電車は不通。15km離れた自宅まで歩こうと、17時過ぎに会社を出た。東京タワーの照明は消えていた。

2011年3月11日：飯田和敏：東京都新宿区：男42歳 高層ビルの11階の会議室で新作ゲームの打ち合わせ中、ゆれた。いつまでたっても終わらない。打ち合わせを中止し、開発室へ向かう。パーティションが波打つ。普通に歩くことが出来ない。資料の本が散乱し、ディスプレイが倒れた。とにかく外に出ようと思った。911の映像を思い出していた。初めて下りる非常階段。知っている顔、知らない顔。誰もしゃべらない。出口でビル警備員に安全確認が取れるまでロビー内に留まるよう指示された。僕は無視して最寄の新宿中央公園に向かった。公園には多くの人が出た。ヘルメット姿の一群が目についた。ゆれは続く。高層ビル群がしなり、隣とぶつかるのではないかと思った。誰かのワンセグから津波警報を聞いた。

2011年3月11日：タカギタイキチロウ：東京中野区：男35歳 自宅。大きく揺れた。窓をあける。放し飼いをしているインコたちを一羽一羽捕まえて、カゴに入れる。インコを連れて外にでる。余震がおさまったので家にもどる。テレビで津波の映像。福岡に出張に出ている嫁から電話。その日の夕方のツイート《昭和三陸大津波を経験した山下文男さんに取材した時「第一波が去った後、家の貴重品を取りに帰り第二波に飲まれて亡くなった人が多数いた」と仰っていました。「家や街は人が努力すれば立て直せるけど、人の命は戻ってこない」とも。山下さんは明治三陸沖地震津波で親族の殆どを亡くしています。》

2011年3月11日：加藤敦太：愛知県愛知郡：男23歳 自宅一階にて、ノートPCで作業中に揺れだす。家が軋む音。20秒くらいで揺れが収まる。物は落ちなかった。そばに猫が一匹もいない。避難は保留する。とりあえずデータを上書き保存。PCを閉じた。携帯と飲みさしのペットボトルを持つ。二階寝室へ向かう。猫、全員発見。外出中の父母にメールを打つ。TVを点ける。震源は宮城県だと分かった。先日のオークション、石巻の人だったなと思い出す。母から返信が来た。

2011年3月11日：三浦天紗子：東京都新宿区：46歳女性 自宅のソファで本を読んでいた。ぐらっという衝撃があって、はっとした。関東育ちだから震度3程度の揺れには慣れている。でも直感的に「これは違う」と思った。案の定、徐々に揺れは強くな

った。壁に沿って置いてある本棚から、本ばさばさと落ちてきた。外に出ようとは考えなかった。本棚が倒れないように押さえなきゃ、と思った。押さえきれない位置にあった本棚が倒れた。正面にパソコンがあるのだが、テーブルの縁が本棚を支える格好になって、かろうじてパソコンはセーフ。よかったと思う。キッチンの食器棚からグラスやカップが落ちてきて割れる音がある。いつまで続くんだろう、この揺れはいつ終わってくれるんだろうとそればかり考えていた。

2011年3月11日：近藤英明：埼玉県さいたま市：男 45歳 新宿付近オフィスビル。揺れた。とりあえず二度ほど机の下にもぐるが、倒れてくる機器、書籍類などはない模様。「東北大地震で、津波があった」というが、あまりピンとこない。「首都圏の電車は全てストップ。今日中の運行は無理」という情報の方が重大に感じる。徒歩帰宅を決め、19時頃退出。街はごったがえしてはいるが、人々は整然と歩いている。道の節々の交番で、帰路を教えてもらう。交番を尋ねる人多数。3時半頃、自宅着。鉄筋マンションのためか、自宅内は乱れていない。疲労で頭が回らず、すぐに寝る。翌日、点けたテレビで被害の甚大さを知り、愕然としパニックに陥った。

2011年3月11日：高須正和：東京豊島区：男 36歳：会社 ブログの原稿用撮影をしている最中に地震。以後、google docs や twitter などを使って社内の地震情報を収集整理。社内にいる人の安否を google docs の一覧表に書き込む。社内 jabber チャットで、状況報告（ここの Ust で地震情報やってるよ 等）。・社外に向かって、twitter で「社内にいる人は安全です」tweet（何人かの内定者から、「安心しました」の連絡が来た）・社内外にいる人の名簿を google docs で作って、外出中のメンバーの情報共有。誰か、連絡が繋がったら名簿を更新・自宅ネット家電にリモートログインして無事を確認・会社でレンタカーなどが手配され、みんな帰りだしたのを確認・五反田で飲んでる知人と合流して朝まで飲んでいた

2011年3月11日：千野帽子：京都市中京区→岐阜県養老郡→長野県飯田市：45歳男：15時ごろ、タクシー運転手に地震のことを教えられる。ハンドル横のTVは岩手からの中継。《文藝》が14:48に送信したゲラのD-faxをiPadで開くと5枚中1枚しか届いてない。細君から電話、予定どおり行ってみると返答。名神高速でバス乗車。養老SAは予想外に平静。山の端に丸い大きな月がかかる。真っ暗な上飯田停留所からタクシーでルートイン飯田へ。福島知人に電話すると違う人が出た。番号変えたの知らなかった。この日は海猫沢めろん『愛についての感じ』角田光代『ツリーハウス』読了。未明に揺れを感じて2回、目が覚めた。

2011年3月11日：島影真奈美：東京新宿

区:女 37 歳:自宅兼事務所。PC 机の前にいるときに大きな揺れ。玄関のドアを開けに行く。近所の人たちも次々外に出てくる。部屋に戻ると床が書類とファイル、レモンウォーターでぐしゃぐしゃ。スニーカーをはいたまま、防災リュックの探索と部屋の片付け。何度も揺れる。斜めがけできるバックに携帯電話と iPhone、充電器などを放り込む。頭には毛糸の帽子。仙台の実家に電話をかけてみるがつかない。避難に備えて、コンビニで食料購入。白飯とのりたま、魚肉ソーセージ、お茶。緊急伝言ダイヤルにかけるが「被災地の電話番号でないため、かかりません」。23 時過ぎ、叔父から母のメールが転送されてきて、無事らしきことを確認。両親と義妹たちに携帯メールを送る。返信なし。**2011 年 3 月 11 日:katsumaki:東京都港区:女 25 歳:自宅。**はじめは普通の地震かと思ったが、ゆれがどんどん強くなる。室内で一番大きい家具を押さえる。液晶テレビが倒れそうなほど前後に大きく揺れている。キッチンの引き出しが開き、玄関のシューズボックスは倒れて靴が散乱した。机の上のミルクティーがこぼれてキーボードとタブレットがミルクティーまみれになった。長い揺れの中「次に何をどうすればいいのだろうか?」と考えたのだが”地震が発生したらまず、机の下に隠れる”ということぐらいしか知らなかったので次にすべき行動がわからなかった。地震がおさまリテレビをつけたら信じられないほどの大災害が起きていた。もしかしたらこれは現実じゃなくて映画なんじゃないか??と思った。**2011 年 3 月 11 日:山田新:東京都杉並区:男性 41 歳:文京区**の会社、高層ビルの 8 階。揺れは大きい、大きなビルの中にいたためか危機感は無かった。TVがある隣の部署から聞こえる声に只事ならぬものを感じTVを見る。火災の映像。追って津波の映像。あまりに現実離れした映像に、これは映画ではないということ自分をいいきかせていないと、現実の出来事だという認識がもてない。仕事どころではないが、管理系の仕事なので会社としての対応をすぐ決める必要があり会議。早い時間での退社を認めること、会社に泊まる社員のための宿泊スペースを準備することを決める。そして帰宅。護国寺から高円寺まで夜の行進。**2011 年 3 月 11 日:木村裕之:東京都港区:男 30 歳:職場**の会議室で会議中に地震。ゆっくりだがけっこう長くゆれる。しだいに揺れの大きさも大きくなる。一人が「出たほうがいいですよ!」と言い飛び出した。関東は地震が多いから、と半笑いで部屋を出ると階段には既に多くの人があった。ビルの外の国道にはもっと多くの人があふれ、ビルが目視で分かるほど揺れていたためか中央分離帯まで人がいた。車は停止していた。安堵からかイベントを楽しむような雰囲気となった。iPhone でゆれるビルを撮影した。しかし職場に戻るとテレビの前に人だかりが。恐ろしい映像が流れていた。**2011 年 3 月 11 日:唐木厚:東京都文京区:男 46 歳:会社、21 階**の

フロア。仕事先と電話中に揺れを感じる。すぐに収まるかと思い、そのまましゃべり続けていたが揺れが止まらない。さすがに電話を中断し、机の下に潜り込む。不思議と恐怖感はなかった。ちょっと収まったかと思い、机の下から這い出たが、またすぐに揺れ始める。今まで経験したことのない長時間の揺れ。内臓が揺さぶられている感じで、船酔いのような気分だった。9階にある自分の席に戻ろうとしたが、エレベーターが止まっていた。仕方なく階段で降りる。テレビの前に人だかりが。恐ろしい映像が流れていた。**2011年3月11日**:小林央:東京都千代田区:女 30歳:神田にある職場。古いビルの7階には従業員が5人。1度目の大きな揺れ。様子を見ている。2度目の大きな揺れ。総務の女性が悲鳴を上げる。揺れが激しくなる。窓から離れ、床にしゃがみ込む。天井まである棚が、次々机に向かって倒れる。電話やPC、書類が床に落ちる。棚の扉が開き、中身が床に散乱する。揺れが落ち着く。テレビをつけていた別室の社長が叫ぶ。「福島で地震と津波。もう一度大きな揺れがくるぞ」近くにあったバッグと膝かけを取り、玄関へ向かう。エレベーターが止まっている。外の階段を使って全員道路へ避難。ビルの壁のタイルが一部崩れている。周りのビルから避難してきた人が100人ほどいた。半分以上が携帯電話をかけていた。**2011年3月11日**:小林央:東京都千代田区:女 30歳:神田にある職場。古いビルの7階には従業員が5人。1度目の大きな揺れ。様子を見ている。2度目の大きな揺れ。総務の女性が悲鳴を上げる。揺れが激しくなる。窓から離れ、床にしゃがみ込む。天井まである棚が、次々机に向かって倒れる。電話やPC、書類が床に落ちる。棚の扉が開き、中身が床に散乱する。揺れが落ち着く。テレビをつけていた別室の社長が叫ぶ。「福島で地震と津波。もう一度大きな揺れがくるぞ」近くにあったバッグと膝かけを取り、玄関へ向かう。エレベーターが止まっている。外の階段を使って全員道路へ避難。ビルの壁のタイルが一部崩れている。周りのビルから避難してきた人が100人ほどいた。半分以上が携帯電話をかけていた。**2011年3月11日**:佐藤福子:静岡県沼津市:女 33歳:お店(喫茶店)でお客さんにコーヒーを出したところで、揺れ。最初は「揺れてますね」とのんびりしていたが揺れが激しくなり、あわててガスを消し、一度お客さんにも外に出てもらう。落下物はなし。テレビがないのでネットで情報収集。大津波警報が出たことを知る。父、知り合いの飲み屋さんで物が落ちたらしいと言って出て行く。お客さん、余震が来るたびに「ねえちゃんがんばれよ」とか言いながら一組、また一組とお帰りになる。電話が繋がらないため両親とも連絡が取れず、大変なことが起きているみたいだと思ふものの、お店をどうしたらいいのかわからないため、ひとりでバケツにお水を汲み続けた。

0311text

0311text project

2011年4月4日

編集：米光一成

<http://blog.lv99.com/>

こどものもうそう blog : 0311text

<http://blog.lv99.com/?eid=1081543>